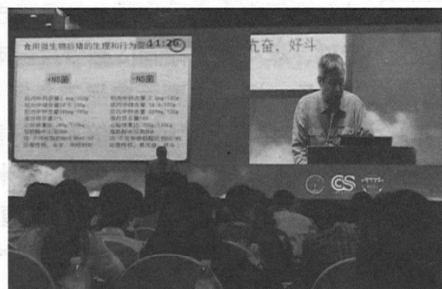


ZOOM UP ダイジェスティブエンザイム

トピックス 中国科学院教授・金鋒博士、NS乳酸菌普及に注力

NS乳酸菌の発見者である金鋒氏は、これまで、脂質代謝作用、抗うつ作用、抗炎症作用、抗ストレス作用などに加え、腸内細菌の脳への影響、認知機能改善、不安低減といったデータを論文で発表。今年に入り、「腸管微生物叢および臨床応用シンポジウム」(上海)や、「第3回中国腸統合学術会議」(南京)など相次いで有用性を発表。9月には、国務院発展研究センター(北京)、10月には中国認知科学学会の主宰する『第2回認知科学と脳の疾病転化医学大会』(成都)でも講演。世界中の研究者からNS乳酸菌の機能性に関する注目が高まっている。NS乳酸菌サプリメントの引き合いは増加傾向にある。

中国では、NS乳酸菌ヨーグルトへの注目が高まっており、中国・河南省開封市の観光地「清明上河園」には、9月にNS



10月『中国認知科学学会』で講演する金鋒氏

乳酸菌ヨーグルトの店舗『乳酪張家』もオープンし、発酵文化の推進に寄与している。



NS乳酸菌を提案

ラクア

(株)ラクア(東京都千代田区)は、モンゴル遊牧民がつくる保存食や発酵乳などから採取された乳酸桿菌「NS乳酸菌」を用いた『大草原の乳酸菌NS-Max/NS-Slim』が医家ルート中心に好調だ。

NS乳酸菌は、中国科学院教授・金鋒博士が発見した有用菌で、今年に入り注目が高まっている(トピックスⅡ参照)。特に大型で酸度の高い乳酸化物を多く作れる乳酸菌(桿菌)を選び出し、DNAを特定したものを独立単菌培養したもの。主な特徴は、摂取後、耐酸性のため胃酸で死滅することなく、免疫の大部分を司るといわれる小腸で最も活発に増殖し、本来の機能を発揮するよう、培養ピーク前の共生性乳酸菌として設計されている点。腸内で硫化水素やアンモニアなどの神経毒素の発生を抑制し、アミノ酸の産生効率を高める作用を確認しており、腸内環境の改善、免疫力の向上やアレルギー疾患の予防などの機能性が期待できる。中

国・甘粛省にある病院との臨床試験では、がん細胞への抑制効果を確認。日本では、認知症患者の「長谷川式認知症スケール」「ミニメンタルステート検査」の得点が上昇、パーキンソン病の患者の便秘が改善され、震えが軽減した——などの成果が報告されている。

統合医療を提案するクリニック医師をはじめ、歯周病予防や口腔内環境ケアを訴求する歯科医、減薬志向の精神科医、全身の調和を診る眼科医や産婦人科医など、医療従事者に幅広く支持されており、酵素栄養学の第一人者である鶴見隆史氏の推薦サプリとしても定評がある。

同社は、売上の一部を「モンゴル砂漠緑化のための植林活動」(有)バンベン)の支援品購入に充て、循環型ビジネスを目指し取り組んでいる。また、昨年BCリーグ(プロ野球)に参加している福島県の県民球団「福島ホープス」の公式スポンサーとなるなど継続性のある復興支援にも着手。「ヘルスケア事業を通して社会全体の健全化・健康増進に貢献していきたい」(代表取締役・金川重樹氏)という。